



家庭通信 1月号

2023年1月6日
学校法人 織田学園
おだ認定こども園

今年のお正月は暖かい日が続き、穏やかな年始をご家族の皆様と過ごされたことと思います。今年はお実家で親戚の方とお会いしたり、旅行に行かれたり、3年振りに人との交流の多いお正月を過ごした方も多かったのではないのでしょうか。12月は園内でもコロナ感染者が多くなりご心配をおかけしましたが、幸いにも重症化するケースはありませんでした。今後も基本的な感染対策を徹底し対応してまいります。

さて、我が家の新年は、数年前から卒園生が出演する駅伝の応援からスタートします。今年もテレビを見ながら選手たちの勇姿を見てかづけられました。今年の大学駅伝では駒澤大学が2年振りに総合優勝し青山学院大学は3位でした。この両校の監督は指導方法が真逆であることでも有名ですが、駒澤大学は2018年にシード権を逃すほどの低迷な時期があり、大八木監督の指導方法が変化してきたと言われています。それまでは熱血漢で一方通行の指導だったのが、選手とのコミュニケーションを重視し、「私だけで決めるのではなく、選手にも考えさせながら実行する。疑問を持たせることの大切さをテーマにやっている」(中日新聞記事抜粋)との主体性を大事にする方針に転換し、その結果が今年の箱根駅伝の総合優勝という輝かしい成果につながっているようです。

このことは乳幼児教育にも通ずることがあり、主体性とコミュニケーション能力はどの年齢においても身に着けたい力であることを再認識しました。

【研修報告】

「仕事をする上でモチベーションアップするには、向上心を持つために」(大事にしたい保育像・理念を念頭に置いて)

毎年、年明け1月4日は正職員全員で研修を行っています。今回のテーマは「仕事へのやりがい」について年齢別グループでマインドマップを作りながら探究する研修を行いました。職員一人ひとりが、自分は保育者としてどうあるべきか。おだ認定こども園で望ましい保育者とは?と仲間と共に問いかけ合いながら話し合うことに重点を置きました。その中には、仕事上で上手くいかない事に直面し、自信を失ったり、ストレスを感じたり、向上心を保つことが難しくなったりする時があることも話題に上がりました。向上心を持続けるために、ストレスをどのように発散しているかなど、色々な側面から対話した結果最終的に各グループから出された意見は、「互いの保育を見て学びを深める」「園内研修の充実」「園外研修への参加」など保育の質を高めていきたいという意欲的な発言がまとめられました。またストレス発散のために、仲間や先輩に話を聞いてもらう、趣味、プライベートの充実などもシェアすることができ、同僚性も高まりの重要な要素であることが認識されました。

昨今保育者による不適切な対応が社会問題になっています。当園では「子ども達の最善の利益」に配慮した保育を徹底していますが、一人ひとりが更にこのことを意識して専門職として資質と能力を高め合える人間関係の構築に努め、保護者の皆様の大事なお子様を安心してお預かりできる園であり続けられるよう、一層努力してまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

1月のわらい

<年長組>

- ・身近な自然現象や様々な遊びに興味を持ち、遊びに取り入れていく。
- ・友だちと一緒に一つのことに向かって意欲的に取り組み、満足感を味わう。
- ・自分の力を発揮しながら、遊びや生活を進めていく。

<年中組>

- ・色々な遊びに興味を持ち、進んで取り組む中で自分達なりに進める楽しさや面白さを感じる。
- ・友だちと思いや考えを伝えあいながら一緒に遊ぶ楽しさ味わう。
- ・冬の自然事象に興味を持ち、触れたり遊びに取り入れたりする。

<年少組>

- ・園生活に見通しを持ち、自分の身の回りのことを丁寧にしようとする。
- ・戸外で簡単なルールのある遊びや色々な体操を通して身体を動かす事を楽しむ。
- ・保育者や友だちと関わる中で、お互いの思いを伝えあおうとする。
- ・保育者と一緒に冬の自然を見つけたり、興味をもったりする。

<2歳児>

- ・冬ならではの自然に気付き、保育者と一緒に触れたり感じたりして遊ぶことを楽しむ。
- ・周りの子の思いや気持ちを聞く中で、保育者に仲介してもらいながら、自分の気持ちに折り合いをつける。

<1歳児><0歳児>

0.1歳児は個別のねらいを立てています。